

科目名	コマース研究ゼミナール	科目コード	1212	単位数	2
担当者名	深澤 史樹	開講セメスター	第7セメスター	開講年次	4年次
授業の方法	演習	実務経験	無		

● 授業のねらい

- ・当ゼミでは、卒業論文の作成を前提とした基本的な事柄について学ぶ。
- ・具体的には、論文の構成としては、問う：目的の設定、調べる：先行研究のサーベイ、選ぶ：分析の方法（資料と方法）、確かめる：結果と分析、裏づける：考察、まとめる：結論、校正する：提出前の原稿のチェックの仕方などを学ぶ。

● 到達目標

- ・卒業論文の作成に必要な論文構成、文献・資料・統計など収集および分析できるようになる。
- ・自分の主張や表現したい事柄を的確にプレゼンテーションできるようになる。
- ・卒業論文の執筆が、期限内に提出（タスク管理）できるようになる。

● 授業内容

- 1週目 ガイダンス（ゼミでの約束事項の確認など）
- 2週目 論文の構成を学ぶとともに、本セメスター期間での研究計画書を作成する。
- 3週目 卒業論文の構想発表会（1） 1名～2名：目的に照らして、先行研究サーベイの報告をする
- 4週目 卒業論文の構想発表会（1） 1名～2名：目的に照らして、先行研究サーベイの報告をする
- 5週目 卒業論文の構想発表会（1） 1名～2名：目的に照らして、先行研究サーベイの報告をする
- 6週目 卒業論文の構想発表会（2） 1名～2名：目次案を提示しながら、卒業論文の構成を報告する
- 7週目 卒業論文の構想発表会（2） 1名～2名：目次案を提示しながら、卒業論文の構成を報告する
- 8週目 卒業論文の構想発表会（2） 1名～2名：目次案を提示しながら、卒業論文の構成を報告する
- 9週目 卒業論文の構想発表会（3） 1名～2名：主に分析と考察を中心に報告し、検討する
- 10週目 卒業論文の構想発表会（3） 1名～2名：主に分析と考察を中心に報告し、検討する
- 11週目 卒業論文の構想発表会（3） 1名～2名：主に分析と考察を中心に報告し、検討する
- 12週目 卒業論文報告会（4） 1名～2名：卒業論文の内容に沿ってプレゼンテーションを行い、質疑・応答をする
- 13週目 卒業論文報告会（4） 1名～2名：卒業論文の内容に沿ってプレゼンテーションを行い、質疑・応答をする
- 14週目 卒業論文報告会（4） 1名～2名：卒業論文の内容に沿ってプレゼンテーションを行い、質疑・応答をする
- 15週目 卒業論文としての体裁など、最終的なチェックを行う
- 16週目 卒業論文の土台となるレポートの修正、提出。但し、やむを得ず、15週目までのゼミナール内容を実施できなかった場合は、補講授業を行います。

● 準備学習(予習・復習)等の内容

- ・広く文章に触れる機会を多く作る。大量の文章を読むことだけでなく慣れておくこと。
- ・レポートなど文章を書く機会を多く持つこと。苦手意識の克服が必要。
- ・パソコン（特にキーボード入力）を多用するので慣れておくこと。
- ・文献や資料の収集などゼミの時間だけでは不十分なので、事前にしっかり準備すること（所要時間：120分）。
- ・報告者は、指摘された点の再検討や修正をする。その他の学生は、報告者が指摘された事柄について、反芻し参考にすること（所要時間：60分）。

● 成績評価の方法・基準

- ・ゼミ活動を通じて、司会者、報告者、討論者の役割をきちんと理解し、積極的に参加しているか。とりわけ、報告者としてその義務を果たすことを重要視します。
- ・成績は、プレゼンテーションと卒業論文の土台となるレポートの2つを合わせて（100%）評価します。

● 履修上の留意点

- ・成績評価は、11週以上ゼミナールに出席した学生を対象とする。
- ・ゼミナール以外の時間も多く割かなければ、卒業論文（レポート）は完成しませんので、しっかり取り組んで下さい。

● 課題に対するフィードバックの方法

- ・指導については、ゼミナール以外の時間でも、いつでも可能ですのでご遠慮なくご相談下さい。
- ・履修登録に際しては、事前に担当教員と研究内容について相談し、履修の許可を得て下さい。

● テキスト

毎回、報告者のレジメがテキストとなります。

● 参考書

石黒圭(著),『論文・レポートの基本』(日本実業出版社),2012年,1,400円+税

● 更新日付

2020/03/04 09:43